

2015 年 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 上越 第4分科会実践発表 中郷 竹内、七澤

<p>スライド 1</p>		<p>上越の南の玄関口とされる中郷区。▼10年前上越市合併時に行政との協働、そして住民の自主自立を目指し、我が中郷区まちづくり振興会は設立されました。</p> <p>全世帯 1300 世帯を会員とし、今年度からは NPO 法人として多くの企業会員も加わり新たなスタートを始めました。</p>
<p>スライド 2</p>		<p>また、中郷区にはイメージキャラクターの「さとまる」がいます。</p> <p>これは30代の若い世代が声をあげ、小中学生の考えたデザインを基に形になったものです。頭にはさくら。。背中には縄文土器。。子供たちはきちんと中郷区の特徴を認識しています。</p>
<p>スライド 3</p>		<p>また、この中郷区には春夏秋冬、四季折々の素晴らしい資源があります。</p>
<p>スライド 4</p>		<p>残雪残る妙高連山を背景にした桜色の春、</p>

<p>スライド 5</p>		<p>新緑の大地が広がる緑色の夏。</p>
<p>スライド 6</p>		<p>実りの季節。。稲穂が輝く黄金の秋。</p>
<p>スライド 7</p>		<p>幻想の世界に包まれる白銀の冬。。</p>
<p>スライド 8</p>		<p>妙高山麓の冬景色です。</p>
<p>スライド 9</p>		<p>また、今一押しの本木駅の「スイッチバック」。先日小学生に問いかけた、中郷区の特産、これからの売りは？。の答えにこの言葉が数多く出てきました。</p> <p>今、この地域の宝を子供達と大人が意見を交わしながら、育もうとしています。</p> <p>こんな素晴らしい資源の中で、学校と地域が一つになり取り組むコミュニティスクール。</p> <p>今日はそんな中郷区が取り組む地域と学校のかかわりについて御紹介させていただきたいと思います。</p>




<p>スライド 10</p>		<p>地域の子どもは地域で育てる。。。我が中郷区ではこの活動は昔から根付いているものが多く、その中でもまちづくり振興会が中心となって行っている地域事業の中にコミュニティスクールの大きな意味が含まれています。</p> <p>保育園、小学校、中学校の段階的なつながりを意識し、まちづくり振興会が行う事業と共に子供達の郷土愛を育成し、それに学校教育が加わる。そして、地域の様々な人達の熱意が加わる。まさにコミュニティスクールの原点ともいえるのがまちづくり振興会なのです。</p> <p>その、振興会が取り組む子供達参画の3大事業が、中郷区敬老会、区民体育祭、中郷夏祭りです。</p>
<p>スライド 11</p>		<p>毎年 200 人もの参加者を対応する、敬老会には中学校 1 年生が取り組みます。</p>
<p>スライド 12</p>		<p>75 歳以上の高齢者が 800 人もいるこの中郷区、この状況で子供達は小学校の総合学習の中で知り中学に入る前に中郷区の高齢化社会について学びます。</p>
<p>スライド 13</p>		<p>一人暮らしや 2 人高齢者住まいの人達がどんな生活を送っているのか? また、自分達ができることは何? そんな問いかけをしながら、子供達は中学に入ると、秋に行われる敬老会に向けてさらにその考え方をまとめます。</p>

<p>スライド 14</p>		<p>心からのおもてなしや歌や踊りによる高齢者への元気づけは心温まるものがあります。</p>
<p>スライド 15</p>		<p>今年度から始まりました「地域支え合い事業」には、この中郷区は全国でもいち早く取り組みました。まちづくり振興会を中心に要支援1、2の元気な高齢者の方々の憩いのサロンの開催や介護予防に対する取り組みを行う事業です。</p> <p>そして、そこにもすでに小学6年生、中学1年生が総合学習の中で参画し、利用者的高齢者から喜んでいただいております。</p>
<p>スライド 16</p>		<p>2年生は体育祭。中郷区の全ての町内会が参加するこの大きな大会には中学生は重要な役割を果たします。</p>
<p>スライド 17</p>		<p>会場設営から運営まで、大人同等に行うこの事業にも地域愛を育てる大きな意味があります。近年、中学生の参画が多くなる一方、大人の参画が減るのではないかと、中学生に仕事を与えすぎているのではないかと、などの声も聞こえますが、私たちは自分達がやると決めたことに責任をもって最後までやることの達成感、そして自分がこの地域に必要なんだという肯定感を感じてほしいのです。</p>
<p>スライド 18</p>		<p>大人の参画は一時的には減少したこともありますが、その中学生の姿、そしてそれを追う小学生、またそれを見守る高校生が増える事のエネルギーにまた大人もじわじわと参加者が増えています。</p>

<p>スライド 19</p>		<p>この影響か、今年度振興会の中に次世代育成サポートチームが立ちあがりました。</p> <p>中学校で学び、育んだ郷土愛をさらに深め、中郷区に還元する若い世代、青年会のたち上げです。企業の地元採用も増えたことで、この中郷区にも若い世代の顔が増えてきました。</p> <p>大学や高校を卒業した子供たちが、地域にかえり、特にこの体育祭には顔を出す、そんな現象を今、うれしく思います。</p>
<p>スライド 20</p>		<p>そして、中学校での総合学習で培った地域への思いを3年生は夏祭りでぶつけます。</p> <p>地域への感謝、自分達を感じた中郷区。。多くの人に伝えたい感動。。子供達は大人と共に本気で向き合います。9年前、振興会が中学生の地域事業への参画を提案したのもこの夏祭りがきっかけでした。それは子供達からのアクションでした。「私たちの出番を作ってください。」</p>
<p>スライド 21</p>		<p>もともと行政が中心に行っていた、夏祭りも当時はまだ財政的にも今よりは余裕があったのか、朝から酒を交わし、ステージイベントにはお金のかかる芸人を招待し、昔ながらのどんちゃん騒ぎ。。</p>
<p>スライド 22</p>		<p>そんなまつりに中学生はあきていたのか、次第に顔が見えなくなっていました。そんな中、「自分達も何かをしたい」という声がこの中郷区を変えた今につながっています。</p>
<p>スライド 23</p>		<p>夏祭りでは主に郷土料理の再現やおもてなしを行い、</p>

<p>スライド 24</p>		<p>地域への思いを体で表現するダンスパフォーマンスを行います。</p> <p>地域コーディネーターである地域の人が学校に通い、郷土料理の伝統やダンスを通して表現する地域への思いを子供達に教えます。学校という場所がまさに地域のコミュニティの場となる瞬間、この時間は大変貴重なものがあります。</p>
<p>スライド 25</p>		<p>中学校の中に「地域交流室」という部屋を設けていただいたのも、この時でした。</p> <p>学校と地域をつなぐこの教室は、地域の人が気軽に学校に通える、子供達と直接コミュニケーションをとり、考え、実行するための地域の居場所でもあります。</p>
<p>スライド 26</p>		<p>これらのような活動を行う中でまちづくり振興会がまず子供達に伝えていること。それは、自分達の地域に対する思いを叶える法則は、「声に出すこと。」胸に閉じ込めることだけでは叶えることは出来ない。言葉にだすことによって、それを叶える情報を引き寄せることができる。具現化することができる。ということを伝えます。</p> <p>また、これまでの活動の中で、地域の大人としての学びもありました。</p> <p>それは、学校では勉強に部活動に「頑張る」ことの大切さが重要です。しかし、地域では「頑張る」よりも「楽しむ」ことが本当の地域愛を育てる一番のエネルギーだったのです。今、行っている3つの事業にも最初は大人のエゴで、とにかく「がんばろう」「やらなきゃならない」という力が大きく、それに向かない子供達もいました。</p> <p>エゴは手放し、思いを叶える法則の「声にだすこと」それは、自分のやりたいこと、やりたくないこと、楽しい事、楽しくない事をきちんと言える、「こんな申郷にしたい」ということを今でも、将来でもきちんと言える。思いが形に変わること、楽しみを実感する。そのエネルギーが大切だったのです。</p> <p>子供達は一人一人色々な個性を持っています。もちろん大人だって同じです。その個性を如何に輝かせるか。大切にできるか。そして、その個性を地域に還元出来るような。それを育てるのが、私たちの目指す地域からのコミュニティースクールだったのです。</p>

<p>スライド 27</p>		<p>まちづくりの活動とコミュニティスクールの活動は今、まさに両輪となって地域の子ども達を動かしています。▼そして、地域の人達のエネルギーがそこに注がれています。</p> <p>私たち、地域の大人はそんな子供達の姿を将来に充て、いつかこの中郷区を背負う世代に今出来る自分達の役割を再確認しながら活動しています。</p> <p>「学校、地域、家庭」これからも地域に根付く活動に対し三位一体となり活動していくことが、より活発なコミュニティスクールに発展していくものと考えます。</p>
<p>スライド 28</p>		<p>昨年の9月、中郷に立ち上げたポータルサイト、「中郷区立さとまる学校」これは中郷区の教育機関、行政、福祉、まちづくりが一目に見れるものです。</p> <p>「この学校が画面の中のものだけでなく地域の中で実在しているかのように。。。」</p> <p>中郷の住民がこの学校の生徒として、そして先生として通える。。そんなコミュニティスクールを目指しています。</p> <p>そしてそこにはまちづくり、住民組織と学校の力が大きく係るものと思います。</p>
<p>スライド 29</p>		<p>これは、ポータルサイト「さとまる学校」内の、中郷小学校のホームページです。</p>
<p>スライド 30</p>		<p>中郷中学校のページです。</p>

<p>スライド 31</p>		<p>まちづくり振興会のページです。</p> <p>今、子供たちが心で感じるこの中郷区、そのさまざまな感じ方を私たち大人がいち早くキャッチし、その成長に伴って具現化する事の導きをする事が、学校と地域から見たコミュニティスクールの形のように感じます。子供達のこのエネルギーは正に地域にとってかけがえのない力です。</p> <p>【以後、七澤】高波さんの紹介、さとまるとのトーク</p>
<p>スライド 32</p>		<p>さとまる学校について説明します。写真は上越タイムズに掲載された立ち上げのための最終検討会の記事からです。さとまる学校とは、中郷区に育つ子ども達の健全育成を願う「区内の教育関係チーム」です。」このチームの運営は、「NPO法人中郷区まちづくり振興会」が行います。ここが中郷ならではの長特です。</p> <p>このさとまる学校のポータルサイトが中郷の人材育成のよりどころとなり、地域が一体となって中郷が一体となって中郷を発展させていきたいと願うものです。コミュニティ・スクールもさとまる学校のメンバーとして他の団体と機能し合って進んでいきます。</p>
<p>スライド 33</p>		<p>その中郷のコミュニティ・スクールは小学校と中学校が合同で実施しています。合同で行う利点は、小中別の承認や意見交換に加え、小中に共通したり、9年間の連続性を考慮したりした話ができることです。</p> <p>本年度は、福祉関係者や次世代の会、中郷区総合事務所など、さとまる学校を構成する会の代表全員から委員になっていただきました。また、地域住民の選出については、当て職ではなく、地域をよく知る、発信力・受信力のある方々からお集まりいただきました。そうすることで年3回開かれる学校運営協議会が「学校をつくること」と「地域をつくること」の「双方向からの協議」になると考えたからです。実際に5月14日に開催された第1回コミュニティ・スクール委員会では、それぞれの立場から学校や地域の成果や課題、取組の方向について熱心に話し合いが行われました。詳しくは、ポータルサイト「さとまる学校」のCS委員会をご覧ください。</p>

スライド
34



先ほどの竹内理事長の説明のように、中郷コミュニティ・スクールの特色は、学校運営協議会、保育園・小・中学校、地域が一体となって取り組んでいることにあります。

このことを私の立場から表現すると、「小・中一貫教育のタテ糸、コミュニティ・スクールのヨコ糸がいい具合に織りなされていることが、中郷区の教育の強みとなっている。」ということです。

タテ糸について、中郷区には、保育園1園、小学校1校、中学校1校という校種間の連携が進めやすい環境があります。このコンパクトさを生かして、月に1回、中郷区総合事務所が招集してくれる「保育園、小学校、中学校、行政の4者連絡会」により、タテの関係について情報交換や協議を行い、園長・校長・行政間で遠慮のない日常的な連絡や相談を行っています。

ヨコ糸について、先ほど申し上げたように、小・中合同で学校運営協議会を組織し、委員は「中郷区さとまる学校」メンバーと兼務していただいています。つまり、住民代表や行政を含めて地域の教育に関係する団体がすべて揃った「オール中郷」となっています。

スライド
35



また、小・中学校間では「とぎれのない地域貢献」のために、今まで行ってきた総合的な学習の時間の実践をまとめて「総合学習カリキュラム」を作成し、地域と共に歩む総合学習が可視化できるようにしています。▼

目指す子ども像を、



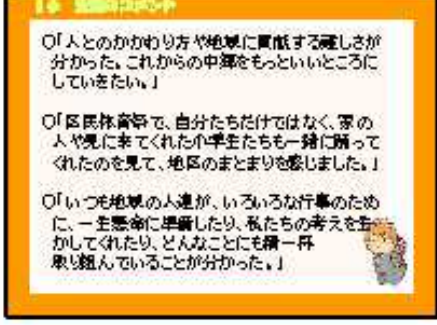

「ふるさと中郷に学び、中郷を愛する子ども」とし、▼

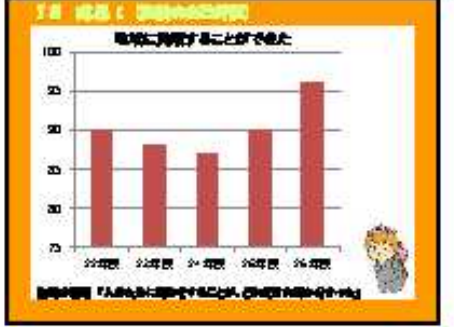
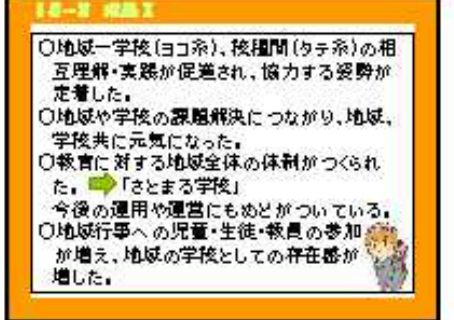
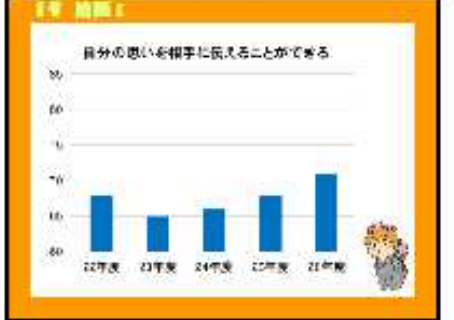
「中郷を知る」・▼

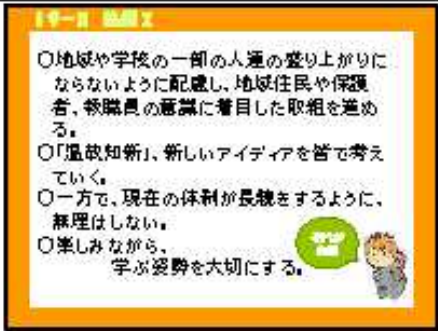

「中郷に学ぶ」・▼

「中郷に貢献する」こと、をテーマとした一貫した総合学習を展開しています。

この表を作成したことで、小学校の児童が先を見通しながら学習し、将来の目標である地域で活躍する中学生の姿を目指すことができている。また、地域住民からも総合学習における学校と地域の関係が一目で分かる好評です。

<p>スライド 36</p>		<p>これは、この4月に行われた、小学校の総合学習のためのオリエンテーションの様子です。</p> <p>小学3～6年生に、まぢづくりに関わるスタッフが、まぢづくりについて、親しみを込めて楽しく語りかけます。</p> <p>中学校では、全校生徒・職員を対象に中学校向けのオリエンテーションを実施しました。</p>
<p>スライド 37</p>		<p>私はよく、用事もないのに小学校や保育園を訪れ、児童や園児の様子を見てきます。何うと職員の方々とあいさつをすることになります。ただ、それだけですが、これからも「何気ない気軽な訪問」を続けたいと思います。</p>
<p>スライド 38</p>	 <p>●「人とのかわり方や地域に貢献する難しさが分かった。これからの中郷をもっといいところにしていきたい。」</p> <p>●「区体育祭で、自分たちだけではなく、家の人や見に来てくれた小学生たちも一緒に踊ったりしていたのを見て、地区のまとまりを感じました。」</p> <p>●「いつも地域の人達が、いろいろな行事のために、一生懸命に準備したり、私たちの考えを生かしてくれたり、どんなことにも精一杯取り組んでいることが分かった。」</p>	<p>中学3年生がこれまでの地域行事との関わりを振り返って次のように記述しています。</p> <p>●「人とのかわり方や地域に貢献する難しさが分かった。これからの中郷をもっといいところにしていきたい。」</p> <p>●「区体育祭で、自分たちだけではなく、家の人や見に来てくれた小学生たちも一緒に踊ったりしていたのを見て、地区のまとまりを感じました。」</p> <p>●「いつも地域の人達が、いろいろな行事のために、一生懸命に準備したり、私たちの考えを生かしてくれたり、どんなことにも精一杯取り組んでいることが分かった。」</p> <p>生徒の声が表しているように、地域の中で子ども達が生かされ、地域も子ども達によって元気をもたらっている様子が伝わります。</p>
<p>スライド 39</p>		<p>これは今年の中郷中学校のグランドデザインです。</p> <p>今年度、新たに付け加えられた4点が「地域が全体となって取り組んできた成果」を表していると思います。▼</p> <p>その1「生徒の考えを生かし向上する学校」を学校の指針として進めるようになりました。▼</p> <p>その2「こんな学校をつくりたい」生徒会が考えた具体案を職員は全面的に支援しています。▼</p> <p>その3「一歩前に入る保護者」中学校文化祭の地域化など、保護者が企画をはじめています。</p> <p>「新たな体制による地域づくり」まぢづくり振興会による、地域づくりをより多くの住民の手で行うための方策です。▼</p>

		<p>その4「さとまる学校に支えられる教育」中郷ならではの、中郷の教育の礎をつくって頂きました。</p>
<p>スライド 40</p>		<p>これまで、取組の経緯や内容を成果等も交えながら報告してきました。</p> <p>このグラフは中学校が毎年、行っている生活アンケートの1項目「地域貢献」についての全校平均値の推移です。各年度共に85パーセントを超える高い数値ですが、昨年度は96%と特に高い結果でした。</p> <p>生徒の記述に「人のために何かをすることがどれだけ大切か分かった」とありました。</p> <p>これからも子ども達の「気づき」や「学び」に着目しながら、良い方向へ進んでいる中郷全体の大きな連携を進化させていきたいと思えます。</p>
<p>スライド 41</p>		<p>全体的な成果をおおまかにまとめると次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域一学校（ヨコ糸）、校種間（タテ糸）の相互理解・実践が促進され、協力する姿勢が定着した。 ○地域一学校（ヨコ糸）、校種間（タテ糸）の相互理解・実践が促進され、協力する姿勢が定着した。 「学校と共に歩む地域」と「地域と共にある学校」が共存しています。 ○地域や学校の課題解決につながり、地域、学校共に元気になった。 ○教育に対する地域全体の体制がつくられた。「さとまる学校」のこトです。 今後の運用や運営にもめどがついていきます。 ○地域行事への児童・生徒・教員の参加が増え、地域の学校としての存在感が増した。
<p>スライド 42</p>		<p>先ほどの生活アンケートで比較的に低い値を示しているのが「自分の思いを相手に伝える」という項目です。</p> <p>日頃の学びを実生活に生かすために、自分の思いや考えをまとめ、発信できる。と言うことを学校全体で取り組んでいきたいと思えますし、地域行事の企画会議などでも留意していただいているところです。</p>

<p>スライド 43</p>		<p>全体の課題など、今後、気を付けていきたいことです。</p> <p>○地域や学校の一部の人達の盛り上がりにならないように配慮し、地域住民や保護者、教職員の意識に着目した取組を進める。</p> <p>○「温故知新」、新しいアイデアを皆で考えていく。</p> <p>○一方で、現在の体制が長続きするように、無理はしない。</p> <p>○楽しみながら、学ぶ姿勢を大切にします。</p> <p>竹内理事長に、「これまでに乗り越えてきたことは何ですか？」と尋ねたことがあります。その返答は、「楽しみながら、学ぶことが多かったので、特に苦しみは感じていません。」でした。</p> <p>いくら理屈を重ねたり、人の責任にしたりしても、地域や学校は何も変わらないと思います。この地域のリーダーの、「人の気持ちを大切にしたい、建設的で、将来的な」返答が、今の中郷を物語っています。</p>
<p>スライド 44</p>		<p>おわりになりますが、私は、これほど地域が子どものことを考えてくれる中学校区へ赴任したことはありません。</p> <p>毎日の通勤路、国道18号線「妙高 戸隠 連山 国立公園」の妙高山へ向かう風景は、ご覧いただいている写真のように、四季を通じて、まるで絵はがきのようです。</p> <p>「地域の子どもは地域で育てる」中郷へ今日も楽しく通います。</p> <p>以上で発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。</p>